宮城県仙南市町水道事業連絡協議会について

①協議会の概要と設置・活動の背景

　昭和５５年頃、当時隣接する柴田町と大河原町の水道課職員同士で「隣接なり地域の事業体はどんなことやっているのだろう、仙南・仙塩広域水道（以下広域水道）にどう対応していけば良いのだろう」等、話し合ったのが始まりで、その後村田町が入り活動していたと先輩から聞いております。

　問題意識を持った職員たちは、仙南地方全体のことではないかということになり、昭和６０年に設立総会が開催されました。組織化された団体は、宮城県南地方に位置する、岩沼市、角田市、白石市、柴田町、大河原町、村田町、川崎町、蔵王町、七ヶ宿町、丸森町、亘理町、山元町の３市９町でした。当時は柴田町が事務局をやってくれていたそうですが、現在は２年交代の持ち回り制で運営しております。会費は団体割と給水人口割での２段階方式としております。今年度は七ヶ宿町が事務局で平成 27 年度からは丸森町が担当します。

　４月に総会、６月の水道週間の期間中に広域水道の水源であります七ヶ宿ダム湖畔の清掃活動を行ってきました。当初は会員だけの活動でしたが、近年は宮城県、仙台市を含む広域水道の受水事業体にも参加を頂いて平成 24 年の参加者は８７名にもなりました。水源を大事にすることは、絶対忘れてはならないことですよね。数年前までは２ｔトラックに２台分ぐらいのゴミがでましたが、最近は随分少なくなってきました。この活動が地元紙でも取り上げてもらい、捨てる人が減っているのは「運動の成果かな」と自負しております。秋には移動研修会を行っております。

会員同士が講師になり研修会を行っていました。平成 24 年度からは、会員相互研修を拡大し外部講師を招き、会員だけでは「もったいない」ということで県内外の水道関連企業にも案内し、総勢１３０名ぐらいで勉強会を行っています。

内容的には総務省自治大学校講師　佐藤裕弥氏から「新企業会計・新水道ビジョンについて」ついて講義をして頂きました。午後からは水道関連の企業にも入って頂き、「水道事業生き残りへの今後の課題」と題し水道ネットワーク通信代表　有村源介氏から辛い講義を受けたりもしました。

平成 25 年 4 月には、東北大学多元物質科学研究所　教授　蔡安邦氏より「秩序ってなに？『準結晶』に見えてくるもの」という非常に難解な講義を受けてしまいました。次に当時厚生労働省健康局水道課水道計画指導室長　熊谷和哉氏より「水道事業の現在位置、その歴史と将来」というこれまた、非常に人口減少という衝撃的な内容の講義を受けました。

7 月は北アフリカ、中東エリア（リビア駐在）石松博史氏より「今後の北アフリカ情勢と日本のあり方」という内容で中東における水道マンの苦労話を聞きました。その後に厚生労働省健康局水道課長・宇仁菅伸介氏より「新水道ビジョンと水道行政の当面の課題について」という講義をうけました。

③これまでの活動を通じて得られた成果

前段で、何か統一性の無いことをやっているなと思われた方も多くおられたと思います。

しかし、内に籠りがちな公務員組織、隣接、県内外の事業体の行っている広い意味でのサービスなり、先端技術、世界の仕組みや動向を勉強することは重要なことだと思います。特に経費節減等で旅費等も満足に予算化出来ない時代に会員同士が議論できる環境は有効であり、今後も充実させていきたいと思っています。移動研修会では岩手県矢巾町に行き勉強をさせ

て頂き、その後大きな成果をあげている会員も多数おります。成果は確実に出ていると思っております。

④今後の展開

　宮城県南地区は平成の合併騒動で、行政の抱える問題を棚上げしてきた経過があると私は思っていますし、水道事業もその一つだと思われます。特に、広域化が声高に叫ばれる昨今、広域水道が生まれた時から避けられない課題でもあります。仙台市という巨大都市が隣接する仙南地方、宮城県並びに仙台市とのより良い距離感を保ちながらも、「安全」「強靭」「持続」の目標を掲げた「新水道ビジョン」の哲学をどう実現するか、非常にハードルは高いと思われますが「やるのはイマデショ！」ということになるのでしょうか。今回の大震災を経験した我々が、ハード面、ソフト面で後世に何が残せるのか、責任は大きいと思われます。官民だけではなく今後は大学や金融機関も巻き込みたいと思っています。水道技術にこだわらず、先端技術の研究者の話しも聞いて仕事のヒントを模索したいですね。大学には水道だけではなく行政も含めて研究の対象にしてもらいたいし、その成果を自治体経営に生かせればと思っています。自治体から大学、大学から自治体、民間からも同じですね。こんな枠組みが夢ですね。

④その他

大震災において応援給水をして頂いた全国の水道協会会員の皆様並びに復旧活動等にも御協力を頂いた水道関係の業者の皆様に感謝申し上げます。特に宮城県南地方は広域水道からの受水団体が多数あり長期間にわたり活動をして頂きまして本当にありがとうございました。沿岸部の復興にはまだまだ時間がかかりそうですので、これからも御支援お願い申し上げます。

最後になりますが、厳しい環境に立ち向かう水道事業、官民総力をあげ水道の未来に東北の復興に水道マンの底力を見せましょう

平成23年度　宮城県の水道より　　（会員事業体の現状）

会員名（上水道）		計画一日最大給水量　m3	現在給水人口　人	仙南・仙塩広域水道契約水量			簡易水道の有・無
				平成23年度　m3/日	最終契約水量		
1	白石市	23,400	34,757	10,000	24,700		有り
2	角田市	25,910	30,397	8,500	21,200		
3	岩沼市	36,850	43,607	11,700	21,800		
4	蔵王町	5,850	9,434	3,700	4,500		有り
5	七ヶ宿町	1,726	1,601	――――	――――	自己水	全域簡水（合計）
6	丸森町	5,470	7,950	――――	――――	自己水	有り
7	柴田町	27,700	38,477	15,200	20,300		
8	大河原町	12,420	23,646	6,600	8,200		
9	村田町	8,230	11,398	5,400	7,400		
10	川崎町	3,780	8,120	――――	――――	自己水	
11	亘理町	18,300	33,853	11,500	14,300		
12	山元町	8,000	14,014	3,800	5,500		
		177,636	257,254	76,400	127,900		

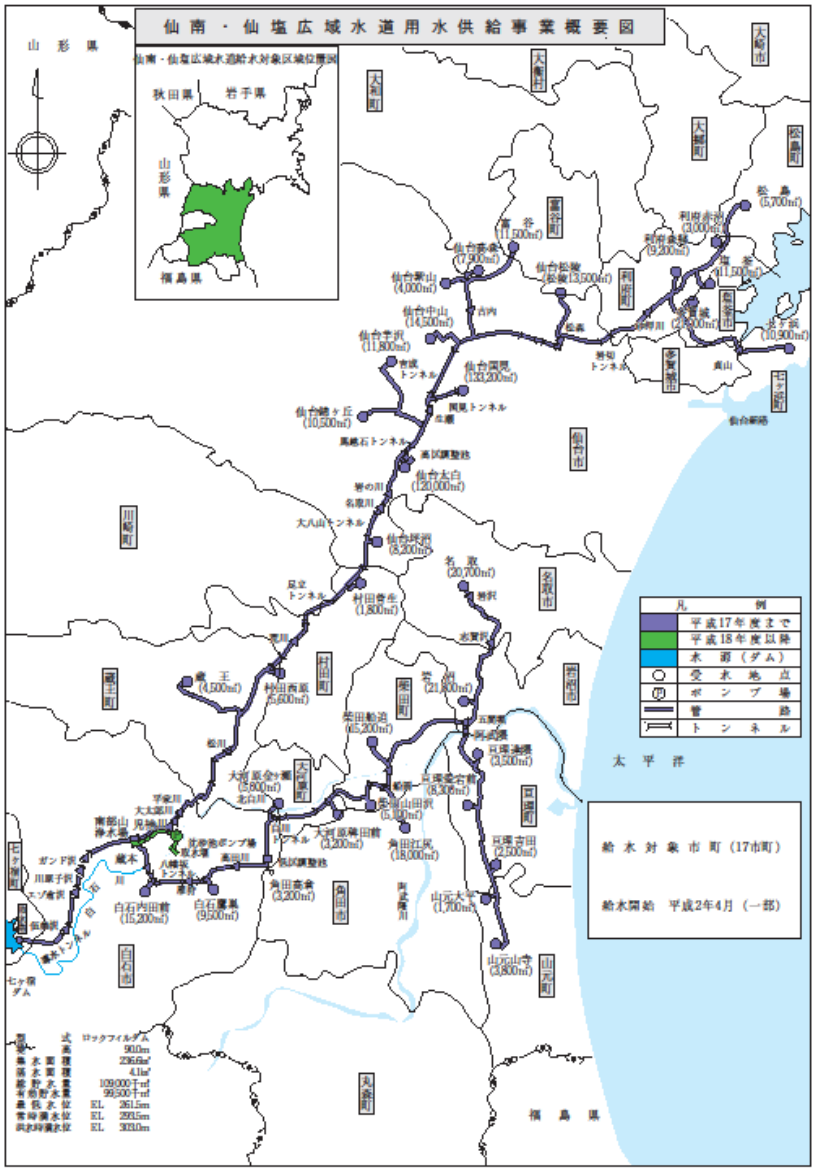
※尚、平成25年度において柴田町、村田町は全水量を広域水道から受水

会員自治体

七ヶ宿ダム湖畔清掃作業

七ヶ宿ダム湖畔清掃作業

七ヶ宿ダム湖畔清掃作業


仙南・仙塩広域水道用水供給事業概要図
仙南・仙塩広域水道給水対象区域位置図
秋田県
岩手県
山形県
福島県
山形県
大和町
大衡村
大崎市
大郷町
松島町
富谷町
利府町
塩釜市
多賀城市
七ヶ浜町
仙台市
川崎町
名取市
村田町
柴田町
岩沼市
蔵王町
大河原町
亘理町
角田市
白石市
山元町
丸森町
太平洋
福島県
凡例
平成17年度まで
平成18年度以降
水源（ダム）
受水地点
ポンプ場
管路
トンネル
給水対象市町（17市町）
給水開始　平成2年4月（一部）
型式　ロックフィルダム
堤高　90.0m
集水面積　236.6m²
湛水面積　4.1m²
総貯水量　109,000千m³
有効貯水量　99,500千m³
最低水位　EL　261.5m
常時満水位　EL　293.5m
洪水時満水位　EL　303.0m